

総務文教委員会管外行政調査結果報告

1. 日 時 令和7年10月22日(水)～23日(木)(2日間)
2. 行 先 ① 1日目 福井県 越前市
② 2日目 石川県 加賀市
3. 目 的 ① 部活動の地域移行に向けた取り組みについて
② 教育施策の取り組みについて～加賀市学校教育ビジョン～
4. 参加者 委員長 阪 口 茂 副委員長 寺 島 誠
委 員 山 敷 恵 委 員 吉 田 佳代子
委 員 二 瓶 貴 博 委 員 松 本 善 弘
委 員 奥 田 悦 雄
- 理 事 者 石 坂 秀 樹 (教育部長)
- 事 務 局 北 野 哲 也 (議会事務局次長兼総務課長)

上記調査事項について、別添のとおり報告いたします。

令和7年11月25日

高石市議会

議長 明 石 宏 隆 様

総務文教委員会

委員長 阪 口 茂

令和7年度 管外行政調査報告書

委員会名	総務文教委員会
参加委員	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> 委員 長 阪 口 茂 委 員 山 敷 恵 委 員 二 瓶 貴 博 委 員 奥 田 悦 雄 </div> <div> 副委員長 寺 島 誠 委 員 吉 田 佳代子 委 員 松 本 善 弘 </div> </div>
日 時	令和7年10月22日（水） 午後1時15分～午後3時15分
行 先	福井県 越前市
調査項目	部活動の地域移行に向けた取り組みについて
概 要	<p>■これまでの地域クラブ活動の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年 越前市の子どもの新たな活動環境に係る検討委員会を設置 (令和6年に「越前市の子どもの新たな活動環境構築に係る協議会」に 名称変更) ソフトテニス、剣道の活動開始 ・ 令和6年前期（4月～） ソフトテニス、剣道、柔道、美術、合唱の活動 ・ 令和6年後期（10月～） 軟式野球、バレーボール、バスケットボール、卓球、サッカー、陸上、 ソフトテニス、バドミントン、剣道、柔道、美術、合唱の活動 ・ 令和7年前期（4月～） ソフトテニス、剣道、柔道、陸上、美術、文化芸術、合唱、ロボコン の活動 ・ 令和7年後期（10月～） 軟式野球、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、剣道、 陸上、柔道、卓球、サッカー、バドミントン、吹奏楽、合唱、美術、 文化芸術、ロボコンの15種目・分野の活動へ <p>※地域クラブ活動には1・2年生で773人参加 指導者は約100人で、そのうち教員が約7割を占める 地域クラブ活動の新たな種目の設定は、協議会で協議する</p>

概 要	<p>■越前市の「地域クラブ活動」の理念</p> <p>①越前市のウェルビーイングの方針（自分らしさを感じる場、可能性を引き出す舞台づくり）に沿った「地域クラブ活動」</p> <p>②子どもや大人、障がい者の参加・交流がある地域連携の「地域クラブ活動」</p> <p>③新たなコミュニティの場（学校・家庭以外のコミュニティ）の創出としての「地域クラブ活動」</p> <p>④多様なスポーツや文化芸術の機会を広げる「地域クラブ活動」</p> <p>⑤体力、技術の向上、判断や選択（自己決定）による主体性育成の「地域クラブ活動」</p> <p>⑥生涯のスポーツや文化芸術活動につながる「地域クラブ活動」</p> <p>■令和7年度後期の地域クラブ活動モデル事業の概要</p> <p>【主な活動概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施予定の地域クラブ活動：スポーツ系10種目、文化系5分野 ・土・祝日は地域クラブ活動で活動を行う ・国、中体連のガイドラインを遵守 <p>【実施種目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軟式野球、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、剣道、陸上、柔道、卓球、サッカー、バドミントン、吹奏楽、合唱、美術、文化芸術、ロボコンの15種目・分野 <p>【運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則土曜日の実施 1日の活動時間は3時間程度 ・地域や学校の指導者から専門的な指導 レベルに応じた指導 ・他校とも一緒に活動 ・長期休業中は原則活動なし <p>【日曜日の取り扱い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日曜日の活動は行わない（ただし、冬季（積雪時）は室内で活動となるので日曜日に活動を変更する場合がある。） ・日曜日に活動する場合、土曜日は活動を行わない。 <p>■令和7年度後期・8年度以降の活動の主な運用</p> <p>①平日は学校での部活動（ただし1日は休養日とする）</p> <p>②土・祝日は地域クラブ活動で活動</p> <p>例外として冬季（積雪時）は日曜日の室内活動に変更することもある</p> <p>③大会は多くの生徒が出場できるように、生徒本人や保護者の希望を重視する。また学校に部活動がない、部員が少なく団体競技として出場ができない、</p>
-----	---

<p>概 要</p>	<p>学校の部活に入部していない等の生徒は、「地域クラブ活動」のチームとして参加することができる。</p> <p>④「地域クラブ活動」の指導は、地域や各競技等団体の指導者と学校の指導者（部活動指導員、外部指導者、兼職兼業教職員）による専門的な指導</p> <p>※地域クラブ活動に携わる指導者は、県または市の指導者研修会を受講する。</p> <p>⑤参加生徒の送迎は保護者または徒歩、自転車など</p> <p>⑥保護者の負担する経費は保険料（８００円）のみ。（令和８年度以降は検討中）</p> <p>⑦参加登録、連絡、出欠、指導者の勤怠は、アプリを活用した一元管理</p> <p>■今後の取り組み</p> <p>「地域クラブ活動」のモデル事業は令和７年度が最終年度となる。令和７年５月に示された国の方針では、平日移行に関しては令和１３年度まで延長されたので、県や他の市町の状況を踏まえ検討を進めていく。</p>
------------	--

<p>所 見</p>	<p>今回の越前市における地域クラブ活動の取組視察を通じ、市が主体となり地域・学校・競技団体が連携しながら新たな子どもの活動環境を築いていることを強く感じた。令和5年度から段階的に種目を拡大し、令和7年度後期には15種目・分野にまで広げており、スポーツだけでなく文化芸術やロボコンなど多様な選択肢を提供している点は大きな特徴である。また、参加生徒が773人に達するなど、市内で一定の需要があることも確認できた。</p> <p>運営面では、土・祝日を中心とした3時間程度の活動、長期休業中の活動なし、冬季の例外運用など、子どもの負担を抑えつつ継続可能な仕組みが整備されていた。指導者についても地域と学校が協働し、研修受講を必須とすることで質を担保している点が印象的である。さらに、アプリによる出欠・連絡・勤怠の一元管理は、今後の地域移行を進める上で参考となる。</p> <p>一方で、教員が指導者の約7割を占めていることから、持続可能性の観点では引き続き地域人材の育成が課題と感じた。また、国の方針により平日移行が令和13年度まで延長されたことから、今後の制度設計には柔軟な検討が必要である。</p> <p>総じて、越前市は理念と実践を両立させた先進的な取組を進めており、本市における部活動の地域移行を検討する上で多くの示唆を得た視察であった。</p>
------------	---

委員会名	総務文教委員会
参加委員	委員長 阪 口 茂 副委員長 寺 島 誠 委 員 山 敷 恵 委 員 吉 田 佳代子 委 員 二 瓶 貴 博 委 員 松 本 善 弘 委 員 奥 田 悦 雄
日 時	令和7年10月23日（木） 午前10時00分～午前11時30分
行 先	石川県 加賀市
調査項目	教育施策の取り組みについて ～加賀市学校教育ビジョン～
概 要	<p>■はじめに ～加賀市学校教育ビジョン BE THE PLAYER～</p> <p>「BE THE PLAYER」、直訳すればプレイヤーであれ。待っていれば誰かが面白い授業をしてくれる、こどもたちを「お客様」状態から脱却させたい、そのような思いの中から2023年1月、4つのプロジェクト「01 学びを変える 02 誰一人取り残さない 03 未来は自分で創る 04 地域と一緒に」からなる加賀市学校教育ビジョンのダイジェスト版を全戸配布し、学びの改革がスタートしました。</p> <p>このビジョンは、コンサルなど外部委託を行わず、基本的に島谷前教育長（文部科学省出身）が策定した。</p> <p>■PROJECT 01 学びを変える</p> <p>教師主導の講義型一斉授業スタイルからの脱却は、これまで最も力を入れてきたプロジェクトの一つであり、教師主導の一斉授業スタイルから「こどもが主役」の授業、「そろえる」教育から一人ひとりを「伸ばす」教育への転換、こどもに学びを委ねる授業、こどもが主役の授業、全員参加の授業へ絶対に変えるという決意で加賀市全体で取り組んでいる。</p> <p>この取り組みを進めるにあたり、特定のモデル校で実施するのではなく、市内全小中学校、全教職員で進めていくという手法をとっている。新たな試みであったため、当時、そして現在も試行錯誤の連続とのこと。</p> <p>カリキュラムは国から示されたものに準拠しており、授業のスタイルは変わっても、教員の役割は変わっていない。これまでと大きく違うことは、こどもたちが一人1台のコンピュータを使うこと、ヒントカードを出したり、クラスメイトの学習進度を把握できるようにしたり、先生お助けボタンなどICTも活用するが、アナログ的な部分もあり、こどもたち一人ひとりが自己</p>

<p>概 要</p>	<p>選択、自己決定、自己調整ができる自立した学びになれるよう、学びの環境整備を図っている。</p> <p>学びの地図として、見通しのもちやすいガイドを掲示したり、先生・生徒が学習状況を把握したり、事業者は子どもたちが輝ける部分をプロデュースするように努めている。</p> <p>子どもたちの学習成績評価方法は、適度に失敗することを含めてマネジメントを行い、高校入試に向けた教育課程は、従来とほぼ同じであり特別なことは行っていない。</p> <p>また、市教委から教職員に自由進度学習、自己決定学習をするよう強制はしておらず、各校での創意工夫による部分が多い。各校において温度差等はあるが、学ぶ内容が同じでも学び方を変える環境の設定がなされ、子どもたち自らが学ぼうとしている姿勢が見られる。</p> <p>なお、このような学びを変える取り組みにより、教職員の時間外勤務時間（平均）は、この３年間で小学校では約３時間減少、中学校ではほぼ横ばいとなっている。今後、部活動の地域展開をさらに進める必要があると考えている。</p> <p>■PROJECT 02 誰一人取り残さない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSR（スクールサポートルーム：様々な理由で教室に入ることが難しい子どもたちが、安心して通える学校内のスペース。学級の時間割とは異なり、自分のペースで学習を進められるのが特徴。全校に設置）の利用者は平均３３人、１校あたり２人強という実績。 ・Being（適応指導教室：学校に通うことが難しい子どもたち向けの場所。個々の特徴に応じたペースで活動や学習ができる）の利用者は現在６人。 ・チャット相談（子どもも保護者も匿名で相談できるサービス。NPO 法人カタリバの専門相談員が対応）の利用者は今年度半年で１３００件、保護者からも６１件相談があった。 <p>不登校対応は、指導主事のみでの対応には限界があるため、NPO 法人カタリバと連携協定及び委託契約を締結している。</p> <p>■PROJECT 03 未来は自分で創る</p> <p>STEAM 教育は、ICT を活用した教科横断課題解決型学習で、加賀 STEAM プログラムとして小学校１年生から中学校３年生までの市独自のカリキュラ</p>
------------	---

<p>概 要</p>	<p>ムを作成した。研修、ICT サポーター派遣は市教委が行っており、現在 ICT サポーターが、毎月各校を定期的（半日 3 回）に訪問している。また、サポートデスクを開設し、随時、学校からの問い合わせを受け、サポーターが学校に駆けつける体制を構築している。</p> <p>STEAM 教育は、テクノロジーの専門家を育てるのではなく、テクノロジーを味方につける感覚、技術革新が遠くで起きているものではないという感覚の習得をめざしている。</p> <p>■PROJECT 04 地域と一緒に</p> <p>コミュニティスクールは、2022 年の規定制定時に先行実施校を 2 校指定し、2023 年に全小中学校に設置しました。従来より地域のバックアップがある中、学校評議員による評議会制度が定着していたため、コミュニティスクールの全校導入について特に課題となるものはなかった。現在、年 2 回の研修会、情報交換会、年数回のたよりの発行を行っている。</p> <p>■学校教育ビジョンの推進</p> <p>学校教育ビジョンの推進については、年度により差はあるが、教職員が授業を変える試みを支援するプロジェクトマネージャー、いわゆる伴走者（コーチングやコーディネーター等としての役割を果たす）を市独自で採用し、指導主事とともに各校の取り組みをフォローする体制をとっている。プロジェクトマネージャーなど市独自の組織設計は、学校教育ビジョンの推進・浸透には欠かせないものである。</p> <p>■終わりに</p> <p>学びが変わればこどもたちは夢中になり、こどもたち自らが学びを変えていく。社会は自分たちで創る、変えていける。受け身ではなく社会の参画者、人生の主人公・主体者として生きる。こどもたちは本当に社会を変えるのではないかと感じる学びの姿が生まれている。</p> <p>「BE THE PLAYER 自分で考え 動く 生み出す そして社会を変える」</p> <p>これは、あくまでも方向性だけを示し続けており、こどもたちをはじめ教職員、市教委の全員が、やらされ感ではなく、「自分事、当事者、プレイヤー」になる意識が重要である。</p>
------------	---

概 要	<p data-bbox="411 141 497 179">【参考】</p> <p data-bbox="453 197 995 235">学校教育ビジョン推進事業（令和7年度）</p> <p data-bbox="491 253 861 291">1. 総事業費 143,526 千円</p> <p data-bbox="491 309 662 347">2. 事業内容</p> <table data-bbox="529 358 1289 564"><tr><td data-bbox="529 358 957 396">（1）学びを変えるプロジェクト</td><td data-bbox="1129 358 1289 396">39,640 千円</td></tr><tr><td data-bbox="529 414 1040 452">（2）誰一人取り残さないプロジェクト</td><td data-bbox="1129 414 1289 452">72,856 千円</td></tr><tr><td data-bbox="529 470 1011 508">（3）未来は自分で創るプロジェクト</td><td data-bbox="1129 470 1289 508">12,157 千円</td></tr><tr><td data-bbox="529 526 954 564">（4）地域と一緒にプロジェクト</td><td data-bbox="1129 526 1289 564">18,873 千円</td></tr></table>	（1）学びを変えるプロジェクト	39,640 千円	（2）誰一人取り残さないプロジェクト	72,856 千円	（3）未来は自分で創るプロジェクト	12,157 千円	（4）地域と一緒にプロジェクト	18,873 千円
（1）学びを変えるプロジェクト	39,640 千円								
（2）誰一人取り残さないプロジェクト	72,856 千円								
（3）未来は自分で創るプロジェクト	12,157 千円								
（4）地域と一緒にプロジェクト	18,873 千円								

<p>所 見</p>	<p>今回の加賀市における学校教育ビジョン「BE THE PLAYER」の取り組み視察を通じ、子どもを“受け身の学習者”から“主体的なプレイヤー”へと転換させる強い意思と、それを具体化する多面的な施策に大きな特色があると感じた。特に、学びを変えるプロジェクトでは、特定校に限定しない全校展開をあえて選択し、市内全ての教職員が変革の当事者となる体制を整えた点が印象的である。ICT とアナログを組み合わせ、自由進度学習を可能にする環境整備を進めることで、子どもが自ら選び、調整しながら学ぶ姿が生まれつつあることを確認できた。</p> <p>また、不登校支援として SSR や適応指導教室 Being の運営に加え、NPO との協働によるチャット相談を導入し、「誰一人取り残さない」仕組みを丁寧に構築している点は非常に先進的である。STEAM 教育や ICT サポーター制度の充実、コミュニティスクール全校導入など、学びを総合的に支える基盤整備も着実に進んでいると感じた。</p> <p>さらに、教職員を支える伴走者（プロジェクトマネージャー）を市独自で配置し、現場の挑戦を支え続ける組織設計は、改革を定着させる上で重要な示唆となった。</p> <p>総じて、加賀市の取り組みは「子どもが主役の学び」を本気で実現しようとする力強い実践であり、本市の教育改革を進める上でも極めて参考となる視察であった。</p>
------------	--